

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 9 日

仕事の内容	ならはし児童館運営事業			
担当部署・課長名	青少年	課	青少年育成	係 課長名 新海隆弘

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 4	-
【施策名】 児童福祉の推進	総合計画書 (ページ)	59	

予算名	款 3	民生費	項 2	児童福祉費	目 6	児童館費	事業 1	ならはし児童館運営費
-----	-----	-----	-----	-------	-----	------	------	------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 周辺に住む0~18歳未満の乳幼児・児童とその保護者。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 市内の0~18歳未満の乳幼児・児童数 (平成31年3月1日現在)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] ①児童館を、児童が遊びや行事を通じて成長できるようにする。 ②乳幼児が安心して遊び、保護者同士の交流・情報交換ができるようにする。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) ①児童の来館者数(延べ人数) ②乳幼児・大人の来館者数(延べ人数) (1)乳幼児 (2)保護者
	③ そのために何をしましたか。 ①児童の居場所の提供。児童向け行事の開催。ランドセル来館の実施。 ②乳幼児の遊び場、保護者同士の交流・情報交換の場の提供。乳幼児親子向け行事開催。1歳・2歳児親子サークルの実施。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①年間実施回数 (1)児童向け行事 (2)ランドセル来館 ②年間実施回数 (1)乳幼児親子向け行事 (2)1歳児親子サークル/2歳児親子サークル

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
	対象指標	①の数値	人	13,976	13,737	13,533	/
	成果指標	②の数値	人	①26,510 ②(1)982 (2)868	①25,513 ②(1)887 (2)903	①23,414 ②(1)984 (2)943	/
	活動指標	③の数値	回	①(1)41(2)292 ②(1)18(2)16/0	①(1)38(2)292 ②(1)15(2)14/24	①(1)159(2)290 ②(1)14(2)17/22	/
目 標	②の目標値		目標値設定の考え方				

3 経費	事業費(実績)		円	13,705,903	16,987,263	16,030,140	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	13,668,853	16,952,653	14,780,120	
		特定財源	円	37,050	34,610	1,250,020	
		(うち受益者負担)	円	37,050	34,610	35,020	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	1.0	1.0	1.0	
		所要人数(再任用)	人				
	職員人件費(再任用以外)	円	8,233,000	8,253,000	8,244,000		
	職員人件費(再任用)	円					
	事業費+人件費	円	21,938,903	25,240,263	24,274,140		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	昭和51年度、児童へ健全な遊びを与え、その健康を増進し、又は情操を豊かにするため、東大和市立児童館を設置する東大和市立児童館条例が制定された。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	通常の児童館運営の外、学童の待機児童対策の一環としてランドセル来館事業を開始し、現在では学童と独立した児童預かり事業として機能している。
		また、子育て支援の必要性が高まり、児童のみならず、乳幼児とその保護者を対象にした子育て支援事業についても取り組んでいる。

仕 事 の 内 容	ならはし児童館運営事業			
担当部署・課長名	青少年	課	青少年育成	係 課長名 新海隆弘

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドセル来館事業は学童の保留児童のための対策として実施していたが、保護者からは学童よりもランドセル来館を利用したいという声が多かった。 ・小学生が勉強ができるスペースがあるとよい。 			
6 市 民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）			
	取組んだ	取組手法	⑧行事でのボランティア募集 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 行事における補佐としてのボランティアだけでなく、行事の講師としても専門的な知識や経験を持った市民を登用する。			
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容			
	<ul style="list-style-type: none"> ・親子サークルについて、内容決定と活動の実施はサークル員に任せているが、職員にやってもらいたいと考える保護者が増えている。 ・2歳児サークルは人が集まりにくい。 			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。			
8 今 後 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容は過去に実施したことのある内容を参考に提示する等、職員がサポートしながら内容を決めた。 			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題			
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児親子向けの事業の企画立案や、相談に対応できる専門的知識、経験を持つ必要がある。 ・児童館に足を運んでもらうための乳幼児親子のニーズの把握。 			
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・他館や他部署の専門的な知識を持った職員が実施している事業の見学。 ・専門的な知識を持った講師による研修会の実施。 ・来館者へのアンケート等。 			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
8 今 後 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が問題意識を持って自発的に学び、職務に取り組むこと。 ・行事を実施して終わりではなく、評価、反省をし、次に生かすこと。 ・課としての適切な嘱託員の採用と配置 			
	(3)改革・改善案による期待成果			
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。